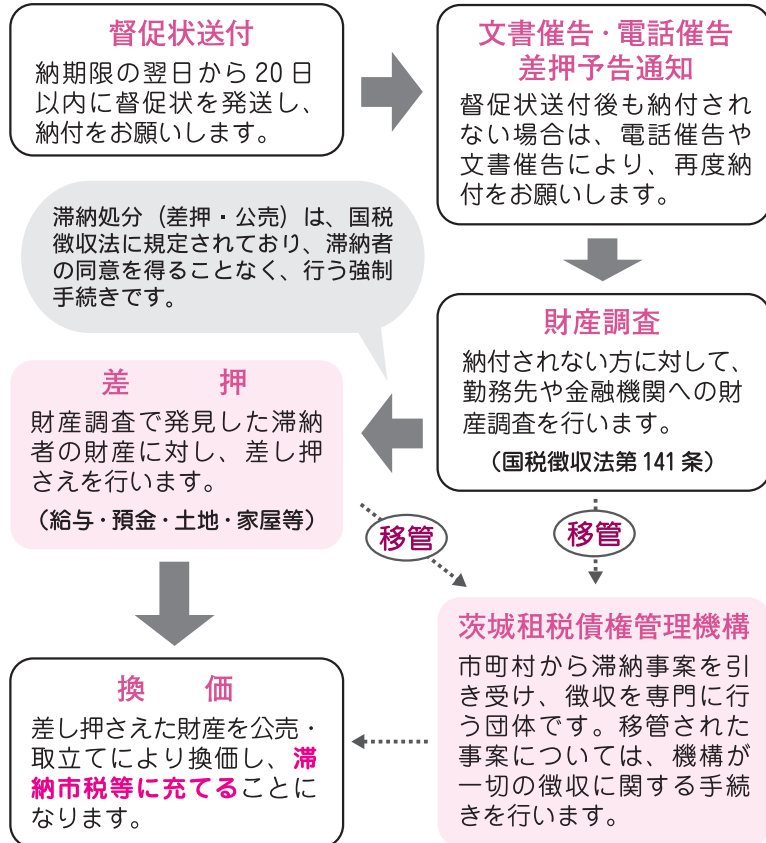


納期内納税を忘れずに!!



市税は、まちづくりの貴重な財源です。皆さんの暮らしにいかされます。

市税を滞納すると…



平成18年度 滞納処分件数

- 預金差押 97件
- その他の債権差押 18件
- 不動産差押 7件
- 不動産参加差押 4件
- 茨城租税債権管理機構移管 5件

◆お早めに納税相談を◆

病気、失業、災害等のやむ得ない事情がある場合は、納税条件を守っていただくことを条件に納期を延ばしたり、分割して納付することができます。また、何もせずに滞納のまま放置しておくとは督促、差し押さえを受けることとなりますので、早めに相談しましょう。

本庁市民部収納課

☎52-1111内線125・126

各総合支所市民課出納税務係

山 方 ☎57-2121

美 和 ☎58-2111

緒 川 ☎56-2111

御前山 ☎55-2111

知らなげでできないエソ

そのむかし、紙は一枚一枚手で漉かれていました。現在も西ノ内紙が生産されている常陸大宮市内は、ほぼ全域が有名な紙の産地で、その生産高は水戸藩の財政を支えるほどでした。紙漉きは農家の副業でしたので、もっぱら冬の農閑期を利用して生産されていました。十分な暖房もない当時の冬の水仕事は、つくづく厳しいものだったろうと、現代の我々にも容易に想像できます。

以前「ふるさと見て歩き」にも紹介しましたが、水戸藩二代藩主徳川光圀は、城中の侍女たちが紙を浪費するのを嘆き、市内松之草(緒川地域)に侍女たちを遣わして過酷な寒中の紙漉きの様子を見せ、紙を大切に使うよう諭しました。戦前は国語や修身の教科書にも採り上げられていた有名な逸話です。

紙はリサイクルの優等生で、すでに平安時代から役所で大量に出る古紙を再生して使っています。(当時の再生紙を宿紙といいます。)また、不要になった書付や帳面の紙を襖の裏張りにしたり、細く切って撚りを掛けて糸とし織物にする(紙布)など、貴重な紙を無駄にすることはありませんでした。現在も、国内で消費される紙の原料の57%が古紙とのことですが、残りの43%は木材パルプです。日本人一人当たりの一年間の紙の消費量は239kgで世界第7位。1日当たり655g、A4判(この広報紙の大きさ)の紙130枚分に相当するそうです。これは、世界平均消費量の4.5倍です。木材パルプには製材残材や植林による木材も使用されますが、3分の1は貴重な天然林が使われており、そのほとんどが価格の安い海外原料です。

現在の私たちは、製紙の機械化により、何不自由なく紙を使っています。2003年に日本で消費した紙のために、原料として伐採された木は1,405万トン。直径22cm、長さ18mの杉の木に換算すると、なんと1億1千万本になるそうです。未来のために、貴重な海外の原生林が私たちのために切り倒されている様子を想像し、重く受け止めて、黄門様の故事にならって生活を見直してはいかがでしょうか。(参考資料 JATAN ホームページ)